

私たちは、社会全体の環境負荷を、地球環境の再生能力の範囲内に抑える必要があります。

環境保全活動の目的は、地球環境の再生能力の範囲内に環境負荷を抑制し、地球環境を維持することにあります。リコーグループは、環境・社会・経済の3つのP (Planet、People、Profit) の関係が、歴史の中でどのように変化してきたかを考えることで、目指すべき社会の姿を明らかにし、その実現に向けて企業としての責任を果たしていきます。

これまでの地球環境と社会

かつて人間社会から排出される環境負荷は、地球環境の再生能力の範囲内に抑制されていました。しかし18世紀の産業革命以後、世界は大量生産・大量消費・大量廃棄の時代へ突入り、環境負荷は一気に増大しました。やがて20世紀末には、地球環境や人間社会の未来に対して警鐘を鳴らす人たちが現れ、環境保全に真剣に取り組んでいない企業は、社会からの支持を得られなくなってきました。

現在の社会と企業の取り組み

現在の社会では、ごみの分別やリサイクル活動、温暖化防止活動など、地球環境へのダメージを減らす活動が広がっています。製造業にとっては、製品の長寿命・小型・省エネ化やリサイクルを推進し、最小の資源で最大の社会的利益と経済的利益を創出することが課題になっています。グローバル企業には、発展途上の国や地域が、少ない環境負荷で経済発展を遂げられるよう啓発・支援を行うことも求められています。また、森林保全や自然修復を行い、自然の再生能力の回復に努めることも重要です。

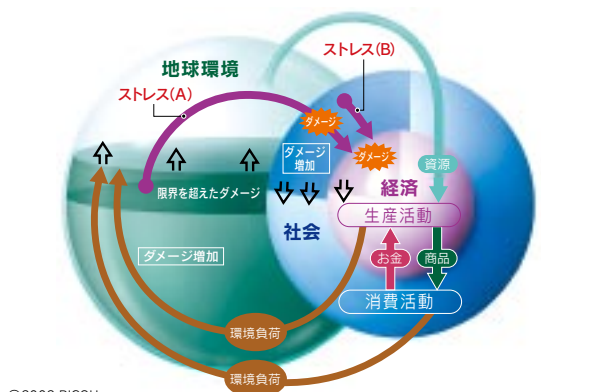
目指す姿の実現に向けて

環境負荷を地球環境の再生能力の範囲内に抑制するには、温暖化防止・省資源・汚染予防の目標を明確にしておくことも重要です。リコーグループは、持続可能な社会という長期的に目指す姿を実現するために、その通過点となる2050年の「超長期環境ビジョン*1」、「2010年長期環境目標*2」と「2005年度からの環境行動計画*3」を策定し、活動しています。かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐために、私たちは今までにない意識と、明確な目標をもってチャレンジを始める必要があります。

*1: 15ページ *2: 15ページ *3: 17ページ

地球環境と社会との関係を表す「Three P's Balance™」

■ 現在の姿



©2002 RICOH
人間社会が地球環境に与える負荷が、地球の包容力・再生能力の限界を超えた状態

■ 私たちの目指す姿



環境負荷が、自然の再生能力の範囲内に抑えられている社会

詳細は、<http://www.ricoh.co.jp/ecology/management/earth.html>